



体験を通して学ぶ

～ 夏休みは大きなチャンス ～

校長 益子 聡

◆ 楽しく学ぶ 1年生の学校探検

今学期、1年生が生活科の〈学校探検〉で、二度、校長室にやって来ました。「失礼します。学校探検に来ました。入ってもいいですか?」と、緊張した顔付きで校長室の入口に立つ子どもたちに「挨拶がじょうずだね。どうぞ、いいですよ」と誉めると、一様に表情をほころばせた2～3人のグループが次々と入ってきます。

1年生一人ひとりが自己紹介をし、持ってきた手作りの名刺を私に差し出すと、さっそく室内を見回します。きょろきょろと目を走らせている子どもに「みんなの教室にはないものを探してごらん」と言葉をかけます。自分の考えをもち、その考えを友だちや大人に伝える力を身につけてもらうためです。

子どもたちが〈見つけた!〉と、指差しながら「あれは、教室にはないよね」と教え合いを始めます。

どの子もすぐに見つけるのが歴代校長の写真です。70年の歴史を刻む本校は、〈初代・小島熙氏〉から〈第二十一代・富永恒一氏〉までの写真が校長室に並んでいます。突然、「聞いてもいいですか?」 — 堂々とした言葉がすらすらと出てきました。

「あの写真は誰ですか?」

私が応える間もなく

「あれは、今までの校長先生の写真だよ。幼稚園の園長室にもあったでしょ」

「そうだよ、今までの校長先生の写真だよ」

「一番初めの校長先生は、どの写真かな」

「(前任の写真を指して) これでしょ」

「(初代の写真を指して) 違うよ、こっちだよ。だって写真の色が変だもの」

70年たった写真は、色が自然にあせてきています。すると・・・

「何でここ(18代校長)までの写真は、色が違うんだろう?」

「昔はこういう色(モノクロ写真のこと)だったんだよ」

私への質問はどこにいつってしまったのか、話が自然に友だち同士の気づき・考え・伝え合いへと進んでいきました。学校探検では、1年生らしい発見とその理由を考えようとする学びの姿、友だちと関わりながら成長していく様子がよく表れています。

◆ 体験的な学習には さまざまな効用があります

学校探検のような活動を体験することによって、子どもたちは、これまで考えていたことと違ったものや新しいものに出あうことができます。そして、感動したり驚いたりしながら〈なぜ? どうして?〉と考えを深めていく中で、実際の生活や社会のあり方を学んでいきます。さらに、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通して、自らを高め、よりよい生活を作り出していくことができるようになるのです。

学校では、以前からこうした体験的な活動を積極的に取り入れていますが、子どもたちが家庭や地域の中でも生活体験や社会体験などをする中で、さらに教育的な効果が期待できます。

あと3週間で楽しい夏休みが始まります。学校では、1学期の学習・生活の締めくくりをしっかりと行うとともに、ご家庭でも夏休みの計画に取りかかる時期になるでしょう。

この夏の豊かな体験や自然とのかかわりが、子どもたち一人ひとりの心に長く刻まれ、かけがえのない思い出になる、生きる力となる — そんな39日間の夏休みになることを願っています。